

私は、当時岡山県内の中学校に勤務し、多忙な日々を送っていました。そのようななかで、日頃指導している数学について、専門性を高めたいという気持ちから、思い切って放送大学大学院受験を決意しました。

大学院入学後は、以前勉強していた「格子の数学」について研究しました。自宅に近い香川大学の整数論がご専門の先生からご指導いただき、その成果を放送大学本部での数理学セミナーで発表しました。セミナーは休日に行われるため、休暇を取らなくてもよく非常に助かりました。ここには、数理学に興味をもたれた仲間が全国から集まり、アットホームな雰囲気で互いに研究を深め、研究の楽しさも実感することができました。ご指導くださった先生方や院生のみなさんに感謝しています。同期のなかには、博士課程に進学された仲間もいました。私も刺激を受け、数年後に兵庫教育大学の博士課程に進学しました。放送大学で学んだ経験は、今でも私の一生の宝物です。

修士全科入学の切っ掛けは、選科生として3年が経ち、単位も揃ってきたことから、大好きな恐竜の話を地域の子供達に伝えたいという予てからの思いを実現するために、研究に駒を進めようと考えたことでした。しかし入学時点ではどのような研究をするかアイデアはなく、他の入学生の方々の高い志に触れて、安易に入学したことを後悔した程でした。そのような中、大森先生から九州産恐竜化石情報のデータベース化を提案されました。データベースならば本業との兼ね合いで前に進めると考えてテーマとしました。研究では多くのつまずきもありましたが、新たに恐竜化石情報を入手できた時は年甲斐もなくワクワクしながらデータベースに入力しました。これを繰り返しながらの研究は、当初の予想を遙かに超える楽しい2年間となりました。これは更に、リタイア後の私が継続して取り組むべきことも教えてくれました。大森先生を始め関係者の皆様に大変感謝しております。

## 修士論文の完成に向けて

自然環境科学プログラム

市毛 修

長年勤めた会社を退職後、エンジニアの経験を活かし地域の NPO 活動などに取組んできましたが、今後の持続可能な社会への課題や解決方法などについて研究したく、自然環境科学プログラムで学ぶことにしました。

論文題目は、「河川の水質汚濁改善に向けた生活排水改善への行動を促す仕組みの構築」です。当初の研究題目はぼんやりとして「興味」的でしたが研究を進める中で、解決に意味がある具体的な「課題」に持っていくことの重要性を学びました。

論文執筆中は、研究の独自性を明確にすること、論理や構造が明快で矛盾した記載が無いこと、用語を正確に用いること等ご指導いただき幾度も見直しました。また、研究室の皆さんには、レポート発表会等で貴重なアドバイスをいただきました。

本研究は先生のご指導はもとより、地域の多くの方々のご協力により達成出来たと感謝しています。

今後、研究成果を地域のまちづくり活動の中に展開したいと考えています。